



アンネの家を訪れ 命の尊さ胸に刻む

山田高 山崎立子さん

わたしはアンネ・フランクが大好きです。彼女の明るさと人に対する心の優しさにあこがれています。今回オランダでアンネ・フランクハウスに行けると知り、わくわくしていました。実際に行ってみたときは驚きでした。部屋は狭く、床は斜めになっていて、薄暗くてとても2年以上も住めるものではありませんでした。当時のユダヤ人迫害の厳しさ、命を守るための大変さがひしひしと伝わってきました。紛争や殺人事件など、毎日尊い命が失われている今、同ハウスを訪れて、あらためて世界の人々に命というものを考えてほしいと強く感じました。

オランダの生徒と サッカーを楽しむ

山田高 箱石大輔君

オランダで人気のスポーツといえばサッカーという人が多いと思いますが、まさにそのとおりでした。芝のグラウンドが至る所にあり、うらやましい限りでした。スポーツの機会は少なかったですが、CLZでの体育の授業ではバレーボール、放課後はサッカーやバスケットボールを楽しみました。夜はホストブラザーに連れられてサッカーのトレーニングに行きました。オランダには部活動がないので、学校が終わるとスポーツが好きな人はそれぞれのクラブチームで活動します。短い時間でしたが、オランダで一緒にスポーツを楽しめてよかったです。

車道同様に立派な 自転車の専用道路

豊間根中 佐々木正太君



僕にとって海外旅行は初めてでした。オランダでは、車は道路の右側を走り日本と逆で、いろんな所にUターンできる場所がありました。さらに歩道と車道の間に自転車専用道路があり、車道と同様に立派で、信号機も付いていました。僕が自転車で登校しているとき、車が止まって自転車を通してくれたので、自転車が優先なのかなと思いました。バスには1回しか乗りませんでしたが、バス、トラム（路面電車）、メトロでも使える共通チケットに刻印してもらってから乗車します。交通に関して日本と違うところがたくさんあり、毎日が楽しかったです。

長のおランダ語でのあいさつに拍手喝采。日本の子供たちによるビデオを使った学校紹介も好評でした。その後、CLZのケルケボッシュ校の見学へ。同年代の子供たちが通う専門校（自動車・木工・料理・商業）です。設備がとても立派で、オランダでの専門教育が日本よりも早い

年齢で始まるということに関心を持ちました。翌十二日、十三日は授業に参加。午後はオランダと日本のゲームで盛り上がるなど、交流も深まってきました。現地のテレビ局が取材のために来校し、山田中の山崎孝則君がオランダと日本の文化の違いなどの質問に答えました。夕方、ニュースでその日の模様が放送されました。十四日の土曜日は一日中ホームステイ先の家族と行動を共にしました。家族ごとに思い思いの場所を訪れ、家族の人たちとの交流もさらに深まりました。夜にCLZで行われたお別れパーティーでは、「ロック・ソーラン節」を披露しました。大変喜んでいただき、アンコールの声がわき起こるほどでした。お別れの日、オランダに入ってから初めての雨となりました。別れを惜しんで空も泣いているようでした。言葉の壁を越えた交流ができ、子供たちは最後の最後まで別れを惜しんでいました。使節団は貴重な経験や思い出を胸に十八日夜、無事帰町しました。本場に多くの方々に支えられた十一日間でした。これからの人生にこの経験を生かしていくとともに、使節団一同感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。

主な行動日程

1月8日…本町出発 9日…アムステルダム着 10日…アイセル湖の大堤防見学／アムステルダム市内見学（ダム広場、国立博物館など）／ホームステイ先へ《16日までザイスト市内でホームステイ》 11日…クリスチック・リセイム・ザイスト校（CLZ）で歓迎セレモニー／ザイスト城見学／ザイスト市役所表敬訪問 12日～13日…CLZの授業に参加 14日…終日、ホストファミリーと過ごす／CLZでお別れパーティー 15日…キンデルダイクの風車群見学／アムステルダム市内見学（アンネ・フランクハウス、ゴッホ美術館など） 16日…アムステルダム日本人学校を訪問／ハーグの日本大使館表敬訪問 17日…ホストファミリーとお別れ／ユトレヒト市内見学（オルゴール博物館、デ・ハール城など）／アムステルダム発 18日…帰町

自己責任を重んじるお国柄が、このような所にも表れているのだと実感しました。夕方には本町との友好都市であるザイスト市入り。クリスチック・リセイム・ザイスト校（CLZ）にてホストファミリーの方々と対面し、七日間のホームステイが始まりました。本年度のホームステイが今までの使節団の中で一番長いということもあり、より一層充実した交流ができました。翌日の十一日から三日間はホームステイ先からCLZへ通学。十一日のウエルカムパーティーには三年生の五十人ほどが集まってくれました。富士団

思い出いっぱいありがとう



友好の地 オランダを訪ねて

町ジュニア海外使節団交流記



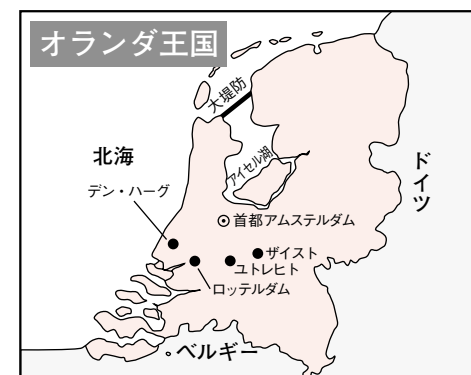
交流の模様をレポートする統導の高橋茂教諭



団長の富士久雄校長

豊間根中学校の富士久雄校長を団長として、豊間根中・山田中の二年生八人と山田高校の二年生二人、そして引率者二人の山田町ジュニア海外使節団総勢十三人は、一月八日に行われた出発式で多くの方々から激励をいただき、翌九日、成田を出発

しました。空路十二時間、時差八時間。ヨーロッパの空の玄関といわれるアムステルダム・スキポール空港に到着しました。一日目の訪問地は大堤防。国土のほとんどが平地で、一番高い地点で三百メートルというオランダ。山の多い日本との景色の違いは歴然でした。観光地に限らず防護柵は驚くほど低く、



オランダを訪問した町ジュニア海外使節団（中学生八人、高校生二人）は、一月八日から十八日までの日程を終え無事帰ってきました。江戸時代にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への生徒の派遣も、今年で十回目。生徒十人は友好都市ザイスト市でホームステイや学校での授業体験などを通じ、現地の人たちと友情を深めました。今号では、生徒たちの体験談とあわせ、交流の模様を統導した山田中学校の高橋茂教諭がレポートします。